

第8期第5回 レポート

第一部 崎浦氏講義について

岐阜県の観光の状況。新幹線の駅も近隣に2つあり（岐阜羽島・名古屋）、とてもきれいな川に恵まれ、豊かなアルプスをも望む、観光の要素となるものには非常に恵まれている岐阜県においての観光の現状には、非常に関心をもっていった。

今回の崎浦氏の講義には、その観光に関する現状のFACTを定量ベース、定性ベース双方から知ることのできる貴重な機会をいただいた。

その中でも私が学びを得たこと、及び改めて改善を行いたいと思ったことがあります。

前者は、岐阜県が外国人宿泊者数において、日本で第15位ということ、その中でもヨーロッパエリアから人気であるということだ。ビジネス目的での宿泊が多いエリアを別とすると、上位10位以内を狙えるポジションにつけている。（ちなみに気になったので日本人を含む延べ宿泊者数でいくと27位）このこと自体は非常に興味深いことではあったがその一方で、なぜ訪日客から岐阜が魅力に感じられているのか、ここについてはもう一段深い調査・考察ができそうで、ここについて個人的に解明してみたいと考えた。なぜならば、ここがわかれば、より多くの外国人の方に岐阜に来ていただくことが可能になると考えるからだ。中央アルプス・北アルプスが理由なのか何なのかについては、別途機会を設けて考察をしてみたいと考えている。

後者は、日本人の観光客の方には、観光にお越しいただいたとしてもなかなか宿泊いただけないということ。自然や観光地、温泉にも恵まれてはいるものの、残念ながら1日つぶして楽しんでいただけるものが少なく、それゆえにみなさん日帰りで観光を終え、帰ってしまうというのが現状だ。確かに、東海地方をはじめとした近隣の地域からお越しになる方は、目的を果たしたら（例：川遊び、スノーボード、お食事等）おかえりになる方が多い印象があるし、遠方からお越しになる方も、東海エリアの他地域とのセット（例：名古屋と岐阜等）でお越しになるケースが多く、近場の観光地としても、遠方からの観光地としても、多くの宿泊客を見込みにくい状況である。

ここについては東美濃と関ヶ原をターゲットとし、県主導でとても魅力的なプランを立案進行中ということで、その完成が非常に楽しみだ。計画内容自体はとてもユニークなもので集客力が期待されるものであるという前提で、交通の便の改善および都心や東海エリアでの本件PRについても何かしら対策がなされることを期待し、日本人・外国人問わず、岐阜県が多くの方に宿泊いただけるエリアとなり、その結果、より多くの方に岐阜県の魅力を知っていただけることが実現できた時に、本当の観光としての成功を収めるのだと私は考える。その日まで岐阜県の観光の状況をウォッチしつつ、微力ながら自らも貢献しようと思う。